

世田谷村日記

石山修武

十月二十二日

昨日島崎さんより「We Love Chairs」いただき、それを眺める。丹念な作りの本になっている。山口勝弘さんの今から色んな事の再アッセンブルを始めてみる事を決める。午後、再び多摩プラーザの山口勝弘さんのところへ。昨日得たインスピレーションを確認したかった。山口先生今日はあんまり機嫌が良くなかった。やはり一人で行くべきだな。山口勝弘七十七才、今まさにヒマラヤの峠を登りつめつつある。今世紀の我々の命題を山口勝弘はよく、余りにも象徴的に表現しつつあるのを確信する。まさに芸術家本来の才質を発揚しているのだ。山口先生の考えの中核と私が構想している開放系技術の考えはやはり同根なのである。

十月二十三日 日曜日

午前中から午後おそく迄、いくつかの企画、計画の方針をまとめた。頭は流石に疲れた。夕方、屋上菜園に上る。完全な雑草園になっている。山口勝弘の今から受けた考えが、一つにまとまりかかっているのを自覚する。夜、「ある老芸術家の再生・光」の出だし、四枚書く。六〇枚くらい書く予定である。今日は一日中世田谷村より一歩も出ず、仕事に明け暮れた。頭は疲れきっている。こんな日はおそらく眠れないのだと思う。

十月二十四日

朝、昨日一日かけて作成したプランを読み直す。マア、こんなものだろう。世田谷村十時発。

十時四十分研究室、ミーティング開始。丹羽、野村他と、昼休み抜きで十六時過迄。石山研のミーティングは仲々むずかしいものがあつて、しかし、何となく様になつてきてると仮想したい。十七時研究室発。渡辺をともない、グラフィケーション編集室訪問。ル・マルスの田中氏と会う。お願い事を聞いてもらう。十八時半迄。来年の話をした。一九時新宿高島屋十三階のソバ屋で渡辺としばし話す。二十一時半頃世田谷に戻り、夕食。今日は昨日、考えたプラン通りに動いた。明日も明後日もそれを続けられれば。今日はエンジン全開で二十二時半休む。眠れないだろうな今日も。